なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ

五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第13回

ふるさとの話

先日、YouTubeで偶然、とても懐かしい曲「おはようおやすみ日曜日」を聴いた。十代の一時期、熱心に聴いた「かぐや姫」の作品の一つで、穏やかに話しかけるようなメロディーに乗せて、眠れない恋人に、日が昇るまで、ふるさとの話を聞かせよう、といった意味の詞が歌われる。作中の彼は、どんなふるさとの話をしたんだろう、とあれこれ想像をしたことを思い出した。

その日の夜、はじめて打ち合わせをした方と軽くお酒を飲んだのだが、青森県出身だという相手のM子さんに、「小林さんのふるさとの行方市ってどんなところ？」と聞かれて、ふるさと、というWordに反応してしまい、昼間に懐かしんだ歌が頭の中で流れ出し、私は極私的なイメージについて語りだしてしまった。

「あまり雪は降らない地域ですけど、降るときもあって、同じ市内でも、ある場所を境に降っているところと降ってないところに不思議にわかれたりね、するんですよ。

地形は平らなようで平ではなく、たとえば大風は、湖や田んぼや丘の畑や森をなめるようにゆったりと吹くんです。だから行方市って、言うんですよ。これはうそです。それとね・・・」

その帰りの電車内で酔いがさめてきた私はしっかり行方市の案内をしないでしまったことを猛省し、帰宅するなり、M子さんに行方市の案内となる観光案内誌「NamegataTabi（なめがたたび）」などの情報をメールしたのだった。

すると彼女から、こんな返事が。

＜小林さんが両手でピースサインしながら「ニコ、ニコ」って連発していた意味がわかりましたよ、「二湖」のことですね＞

すべては、ほんの少量で私を酔わせた、おいしい日本酒のせいである、ということにしておきたい。

小林 光恵さん

ふるさと、という言葉にどんなイメージを持っていますか？最近、あまり使われなくなりましたね。

行方市出身。つくば市二の宮在住。今年は行方市の市制施行20周年ですね。いろんなイベントがあることでしょう。行方市制の成人式みたいなことはあるのかしら。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。
サイトはこちらから▶

地域おこし協力隊 連載コラム⑬

令和5年11月から行方市地域おこし協力隊に着任して、早いもので1年半の月日が流れました。地域おこし協力隊の任期は最大で3年ですので、折り返しとなります。

イチゴに触れるようになって1年以上が経過し、この1年で育苗、ハウスの消毒、土づくり、畝立て、定植、マルチ張りなどの収穫が始まるまでのルーティンを経験することができました。イチゴは、シーズン中も来シーズンの苗づくりの作業を並行して実施するのですが、その苗づくりの過程も勉強させていただきました。収穫シーズンも5月で終盤となり、あともう一息で、忙しい時期も終わりとなります。

また、農業研修の傍ら、5月3日（土）～4日（日）に稲敷市の大杉神社で開催された穣醸（じょうじょういち）市で、研修先のイチゴを販売し、行方市産のイチゴのPR活動も実施しました。

当日は、茨城県各地の地域おこし協力隊も集まり、それぞれの自治体の地域産品や、自分で栽培した農産物販売を行いました。

今後、茨城県の広域連携にも力を入れ、県内各地で行方市をPRしていきたいと思います。任期は残り半分となりますが、引き続きよろしくお願いします。

▲佐藤 晶 隊員

【令和5年11月1日～現職】新規就農を目指し農業に従事するほか、市の農業を盛り上げるためのPR活動等を行う。マルシェ等の企画提案も実施。

①

②

③

④

①②イチゴ苗のプランター洗浄と苗に肥料を散布
③大杉神社の穣醸市に参加した県内の地域おこし協力隊と
④穣醸市で販売したイチゴ